

## 平成29年度 第2回 織田廣喜美術館運営協議会 会議録

- 1 会議の名称 平成29年度 第2回 織田廣喜美術館運営協議会
- 2 開催日時 平成29年10月25日(水)10:30～12:30
- 3 開催場所 嘉麻市立織田廣喜美術館市民アトリエ
- 4 公開非公開の別 公開
- 5 非公開の理由(会議を非公開とした場合のみ)

### 6 出席者

#### (1)出席委員

緒方 泉(会長)、梅野 巖夫(副会長)、手島 静恵、堀 洋子  
山下 みなみ、古賀 修治、木下 勝典

#### (2)欠席委員

三木 一司

#### (3)執行機関

嘉麻市教育委員会 教育委員長 木本 寛昭  
嘉麻市教育委員会 生涯学習課課長 長岡 和広  
課長補佐(館長) 上野 智裕  
美術館係 主査 有江 俊哉  
美術館係 地域活動指導員 藤嶋 芳絵  
美術館係 学芸員 三戸 丈治

### 7 傍聴人数(会議を公開した場合) 0人

### 8 議題及び審議の内容

#### 【議題】

- (1)教育委員会点検・評価報告書(平成28年度事業分)について
- (2)第4次嘉麻市教育委員会アクションプランについて
- (3)平成29年度事業経過報告について
- (4)平成30年度事業計画について

#### 【提出資料】

- (1)教育委員会点検・評価報告書(平成28年度事業分)
- (2)第4次嘉麻市教育委員会アクションプラン
- (3)平成29年度事業経過
- (4)平成30年度事業計画

## 【議題及び審議の内容】

### (1)教育委員会点検・評価報告書(平成28年度事業分)について

#### 事務局より概要説明

- 点検評価委員として出席した梅野副会長より委員会の様子や感想などを報告。内容は次のとおり。
- 教育委員会の仕事全般について報告があり、活発な意見交換があった。美術館関係とは別の分野についても教育委員会の仕事についても理解できよかった。具体的には小学校の現場で教職員とそれを支援する教育委員会の配慮について分かった。例えば給食の提供方法に関して、保健室など教室外において授業を受けている子への提供が行われていること、また給食費の補助についても教育委員会の配慮により現状維持の決断に至ったことなど子どもたちを中心に据えた教育行政の努力がわかり感激した。大変勉強になった。
- 美術館運営については、美術館が地域に根ざしていくための様々な取り組みをしていることを報告してきた。昨年度の絵画交流展の際に天候の影響もあり会場の受付が暗く苦勞したことから改善のお願いをしたところ、早速予算措置がなされ、今年の交流展については受付がとても明るくなったことで感謝していることを報告してきた。(梅野)
- 各委員より意見質問はないか。

#### 《主な質疑及び意見》

#### 文化芸術活動推進事業の評価について

- おおむね期待通りとなっているが、期待通りにならなかったのはどういう理由からか。
- 地域に情報発信する余地はあると考えているし、来館される学校も年々増加傾向ではあるが、まだこちらから出前講座などで積極的に出向くなど改善する余地があると考え自己評価をB評価としていた。後ほど説明する次期教育アクションプランにも改善策を盛り込んでいる。(事務局)
- 具体的に小中学校13校の内5校の活用があったとあるが、小中の割合を教えて欲しい。
- 小学校が熊ヶ畑、嘉穂、碓井、稲築西の小学校4校が来館されと、中学校が嘉穂中学校への出前授業として訪問した。(事務局)
- 学校が美術館に来ることは難しいのか。
- 国語や社会の単元の中に、地域の美術館や文化財の活用など地域に出ることを促すような単元がたくさんある。碓井小学校の場合は近くであるので行けるし、他校の場合は嘉麻市のバスがあるので早めに予約をしておけば無料で利用できるのでは、活用できると思う。

- 本年度も嘉穂小学校や上山田小学校などが美術館に隣接する芝生の公園に遠足として来て、併せて美術館の見学もあった。学校も遠足の目的地として美術館を設定する配慮を頂いていると思う。(事務局)
- 中学校は美術館から出向いた方がいいのか。
- 学校から出向くように教科担当に話をしている。また美術館において中学校文化連盟や美術教科の先生方の研修会で活用して頂くと美術館を身近に感じられるようになると考え働きかけている。
- 美術館の活用法の一つとして研修会が挙げられる。教職員が美術館の活用を知らないので体験してもらうことが大事なので、研修会を美術館で開催してもらうよう誘致すると良い。
- 学校のどういう単位との関わりがあるかを美術館側も知っていく必要がある。小中学校長の委員からアドバイスをいただいているので、相談し戦略を立て、アクションプランにも盛り込んでいくと良い。小中学校の子どもたちの活用、そして先生方の活用につなげることが重要である。

#### ① 美術運営管理事業について

- 照明が改善され、有難かった。
- 今年の絵画交流展実行委員会の中で美術館がもっと市民に身近な存在として、特に障がい者の皆さんへの自由な観覧が出来るような配慮が必要ではないかという議論があり、裏口のドアがとても重く、車いすの方にとってとても負担が大きいことから電動化に改善してほしいとの申し入れを行った。美術館を利用させてもらっている絵画、書、写真の3つの交流展が4月から5月にかけてまとまって利用している。その3つの交流展の実行委員長の名で改善についての要望書を提出した。嘉麻市長宛で提出し、しっかり検討された上で教育長名にて回答頂いた。誠意を感じているが、大きな予算を必要とする改善であることから簡単な了承は厳しいとは思っていたが、回答の内容を見ると、裏口の改良ではなく玄関側がバリアフリー化されていることから車椅子の方等についても玄関側に誘導することで対応したいとの趣旨の回答であった。しかし美術館へ来る場合は表側の駐車台数には限りがあり、また裏口方面へ美術館駐車場と表記された看板があり自然に裏側へ車は進行する。そういうことを考えると裏口からの入館者はこれからも増加するだろうから裏口のドアの自動化は重要である。また玄関側へ誘導することが必要であるならば、裏口へ誘導する看板を取り外し職員専用と指定をしていただかないといけない。しかし表側だけでは駐車台数の絶対数が少ないし、大型バスは入れないのでバスでの来館者は下の駐車場に駐車し、歩いて来ていただかねばならなくなる。将来的な財政の措置ができるまで待つてほしいといった、アプローチの改変が必要であるので検討したいといった前向きな回答が欲しかったという感想を持っている。建設的な意見だと思っているので検討していただきたい。

- 今の話については、織田廣喜美術館運営協議会からの話ではなく、3団体からの要望に対して教育委員会からの回答となるので、ここでの議論ではしないが、より良く市民の方に使ってもらうためにもアクションプラン等で検討されると思うのでそのことだけ確認しておく。

## ② 企画展事業について

- 石川えりに原画展は大変感激した。テレビ局も来ていた。講演会やギャラリートークで作家の方と身近に話す機会がありこのような企画をひとつでも多くすれば沢山の方に来ていただけたと思う。
- 講演会も入りきれない程参加されていた。ふるさとを再認識し、語らうギャラリートークであり、知らない人と感想を語りコミュニケーションができた。
- 来館者がふるさとを改めて認識する機会、昔を彷彿させる機会になった。
- 地元出身であり世界で活躍している作家がいることを初めて知った。
- 身近な絵本を通じて山野炭鉱の事故のことを、稲築の子どもだけではなく市内の多くの子どもたちが知る機会になった。
- 絵本を介して地元の歴史を知る機会になった。この美術館の場合は、隣に歴史博物館があることがとてもメリットである。美術館であったことが今度は郷土館で展開できる可能性がセットになっている。さらにそこから隣接する図書館で調べ学習をしていくとか美術館の使い方のヒントとなるような展覧会だったのだろうと思う。ギャラリートークから知的な刺激を受けたり、子どもたちが絵本から歴史へと学びが深まってゆくといった美術館の楽しみが広がり、さらに学びを深めていくという流れが出てくる。そういうところが美術館の売りだということを学芸員が皆さんに伝えられると美術館にいろんな方々が来ていただくことへとつながる。
- 地元の作家を発掘していくのは学芸員の仕事の一つであるから今後も地元の作家を紹介し、地元の方がこんな作家がいたのかという事を、驚きをもって紹介できる展覧会がまた出来るとよい。

## ③ 教育普及事業について

- ボランティアの登録にはこれからも広げてゆくのだろうが、人数についての目標人数はあるのか。
- 今年度は10人が登録している。その他にも常時ではないが地元の嘉麻市立城山高校の学生がボランティアに来ていただいている。高校生ボランティアは子どもたちとも年齢が近く、大人とは違うふれあいや交流が生まれている。今後も市内には稲築志耕館高校もあり、同校生徒のインターンシップの受入れをおこなっているので、呼びかけを行い広げてゆきたい。(事務局)
- 高校生だと大学へ進学し学芸員の資格を取得したいと思っている学生もいると思う。ボランティアやインターンシップなどで学芸員の仕事をさせてゆくと進路選択の一助にな

るため高校に呼びかけてゆくと良い。学芸員という国家資格の仕事があるということを伝えられると高校生の進路の一つの目標になる。

- アートキッズで石川えりこさんを講師として呼んだように、展覧会で取り上げる作家をアートキッズなどに関連付けるのは良いことである。今後も、子どもが憧れの作家と一緒に過ごす時間、直接指導してもらおう時間があると良い。
- 中学校の美術部にもボランティアとして美術館に来館してもらおうようにすると良い。中学校でも地域の行事に学生がボランティアとして参加できないか打診をしている。
- 中学校では、美術館に関わらず生徒が地域の人とボランティアとして触れ合っ、自分の存在感を感じてほしいと思っている。
- 先ずは美術館のある近隣の校区の生徒が来てくれるといい。

## (2)第4次嘉麻市教育委員会アクションプランについて

事務局より概要説明

《主な質疑及び意見》

- 出前授業については、美術館の人員に配慮して、ボランティアによる人材を確保して事業を行ってほしい。

## (3)平成29年度事業経過報告について

事務局より概要説明

《主な質疑及び意見》

### ①文化芸術活動の推進について

- 美術館の外に出て、多くの事業を実施することで、美術館の良さが伝わっていくだろう。今後も依頼が増えてくると思うが、すべてに対応するのは大変だと思うので、ボランティアや文化協会の助けを借りて計画的に行ってほしい。活動の主体は地域の人や中学生などのボランティアへ協力要請しコーディネートする役割を担ってほしい。
- 貸し館事業が非常に多い。小学生や中学生の児童画展が活発なので、続けていくと将来美術館に係わる人材が育つと思う。
- オレンジサロンや地域の子どもたちと関わる活動など、すごく大切な活動を始めたと思う。わずかな時間でも参加者が充実した時間となるようにしてほしい。
- イギリスでは福祉の場面で上手く美術館が関わっている。ミュージアムの看板には、「museum change life」(和訳:博物館は生活を変える)と書かれており、博物館は生活を変えることができる。塗り絵やパズルの効能など、高齢者の施設の方への説明を行い、施設とタイアップしていけると良い。
- 織田廣喜美術館は貸し館により多くの市民が活用されていることが特徴的である。小中学生の児童生徒の絵画展も活発であるので、そのような事業を継続していくことで、今後はそこから将来アートの世界で生きていきたいという子どもたちが出てくるかもしれない。

- 全体的な印象としてすごく頑張っていると思う。昨年度の課題として挙げられていたが、人員が少ないのに事業数が多く、内容が薄くなったのではという意見があった。事業の柱を考え、事業を精査する、若干縮小するといった事業計画があってもいいとの意見があったが、今年度はそのような意見がないが解決されているのか。
- 意見が挙げられたときは、すでに今年度の事業について計画された後であったので反映できていない。平成30年度の事業については、企画展及び教育普及事業ともに、事業の中身を精査するなど配慮した計画をしている。(事務局)
- 春のコレクション展は会期が二つあげられているが、2回開催するのか。
- 例年、年度をまたいで開催している。1つの春のコレクションの会期は3月の初めから、4月の初めまでである。(事務局)

#### (4)平成30年度事業計画について

##### 事務局より概要説明

##### ① なばたとしたか絵本原画展について

- なぜ学生の夏休みにあわせて開催しないのか。もったいない気がする。
- 他の企画展や、貸し館の事業とすり合わせ、この日程になった。9月から10月は行楽シーズンでもあり、連休に家族連れが来てくれる可能性が高い。(事務局)

##### ② アートキッズについて

- いろいろ課題があるが、今年度の子どもたちの様子はどうだったのか。
- 20名が参加しているが2名問題行動を起こす児童がいる。家庭に事情がある児童や、多動性発達障害で薬を飲んでいる児童がいて、人の話を聞かなかったり、脱走したりする。それぞれ構ってほしくて人と違う行動を起こしているようである。(事務局)
- 学校では特別な支援を必要とする子には、教員が一人つくようにしている。問題行動を起こすなら、保護者と話しあい、協力をお願いする必要があるのでは。
- 問題行動を起こす児童のサポートをするのは、初対面ではなかなか難しい。事前に保護者にむけての説明会、健康カードを作り、子どもについて気になる点を記入してもらうなど、事前に準備、前知識をいれておくこと対応が違ってくるのではないか。スタッフの人員配置を考える必要がある。そうでなければ子どもにとって楽しかったという体験にはならない。児童の多様性を見極める配慮をしながら事業を行っていく必要がある。
- 脱走する児童用にスタッフを用意しておく。脱走したら、無理に戻そうとせずにタイミングをみないといけない。今年始めたばかりで大変だったろうが、学校とは違う場所で子どもたちが活動できる場所として続けてほしい。
- 子どもたちの様子や対応を学ぶために、学校のカウンセラーや教育センターのスタッフに相談すると良い。
- 大人の一方的な見方に感じる。子どもの行動には必ず理由があるので、大人としてできることを考え、その子がその子らしくいられる場所であってほしい。

- ボランティアと子どもの関係を作っていかなければならない。展覧会を作るというのは、大人の発想で、子どもは意味を捉えられない。
- 絵を選ぶことの楽しみ、おどろきなど子どもの心の動きをとらえながら、自信を持って作品を紹介する機会を作してほしい。
- 今年始めたばかりでいろいろ課題もみえてきたし、良い勉強になったと思う。2、3年は続けてほしい。ギャラリートークも話したくない子と話したい子がいるので、話さないという選択肢を与えても良いと思う。
- 続けていくことで、リピーターが増え、直方谷尾美術館のように、子どもスタッフ、サポーターのような人材が出てくるだろう。
- 教室を脱走するなどの行為は、安全面に不安があるので、保護者に一緒にきてもらう、待機をしてもらうなどの協力が必要である。気になる子は、学校での様子はどうか学校に相談してみると良い。学校や美術館で、地域の子どもを支えていく体制をつくる事が出来れば良い。
- 振り返りが大事だと思う。子どもたちに教えてもらいながら、大人もともに成長するという姿勢で臨まなければならない。
- 10回以上学校外で集まって活動する機会はなかなかなく、低学年を保護者無しで預かるのは、すごい冒険だが、いろいろ方法があると思う。

### ③ 地域文化推進事業について

- オレンジサロンや公民館事業など地域に出ているいろいろな活動をする計画にあるが、文化協会に所属する人たちにも力を借りると良い。社会貢献したいけど機会がない方に活動のチャンスを与えるなど、コーディネーターとしての活動も美術館の役割である。文化協会やボランティアなど、美術館に来てくれている方に、助けを求めていいと思う。地域の人に愛される美術館として活動してほしい。

### ④ 日本画教室について

- 欠席者への対応、毎回の出席が難しいなど、そこまでフォローしていく手立てはあるのか。作品をみて感激したので、サークル化を望む。

### (5) その他について

#### 《主な質疑及び意見》

- 今回は、議題が多いのに会議の開始時間が遅かったので、時間を考えてほしい。

閉会

この会議録は、緒方会長及び梅野副会長に確認していただきました。